

3

There was a little fir tree in the woods on the outskirts of the town.

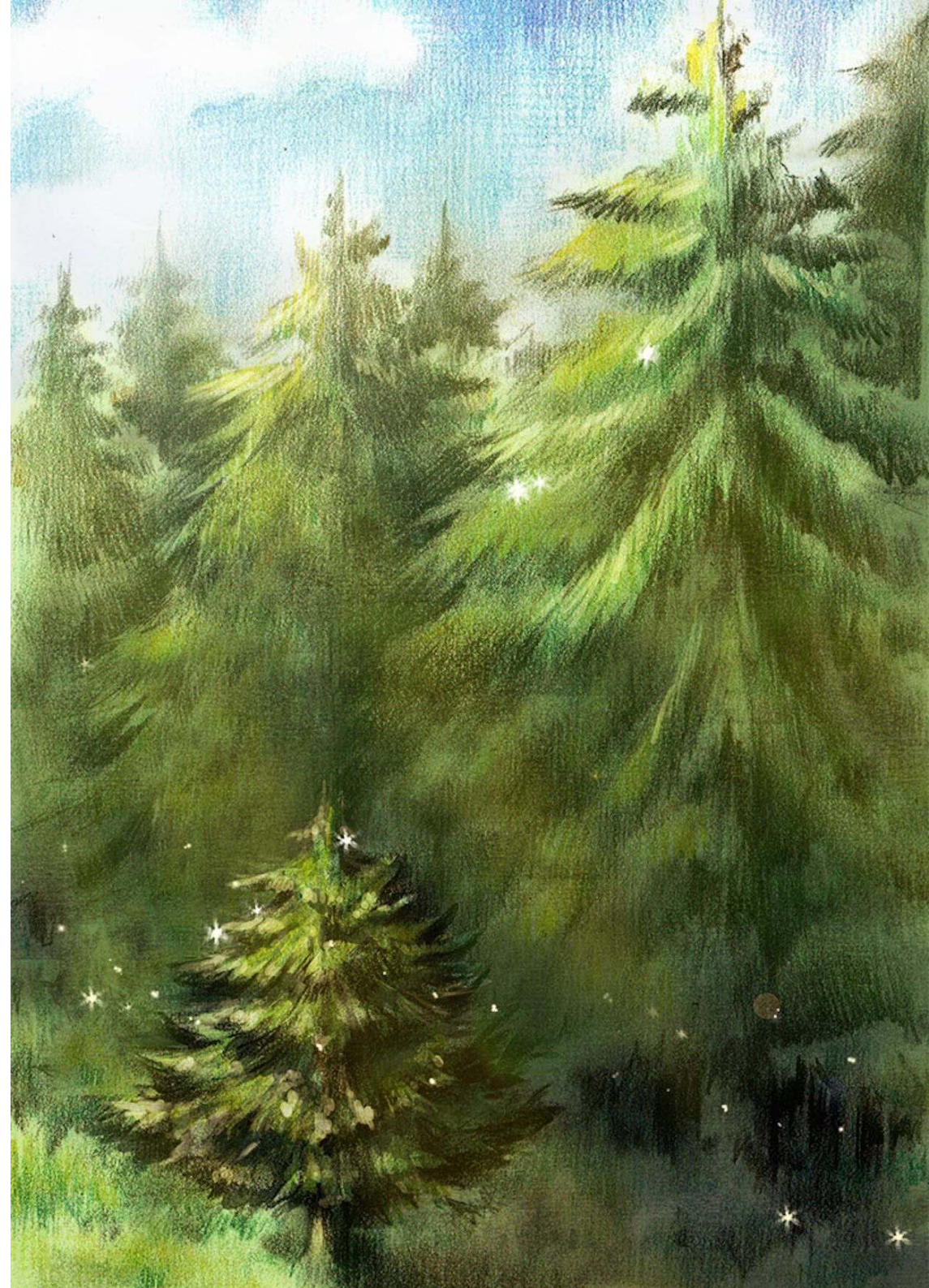
The fir tree was surrounded by a lot of old grand fir trees and young tall fir trees.

The place seemed very pleasant with a lot of sunshine and a cool breeze blowing from time to time.

One day, a single rabbit hopped over the fir tree.

"Oh, not again. I'm sick of being teased about my puny size. Oh boy, I really want to grow bigger soon."

The tiny little fir tree was always looking up at the taller trees enviously.



As Christmas was getting closer, a lot of people came and cut down the fir trees with axes and brought them back.

The tiny little fir tree asked a sparrow on the branch.

"Hey sparrow, where do people bring those fir trees?"

"Those fir trees are brought to the town and they become Christmas trees. Christmas trees are so pretty with colorful decorations and shinning candle lights."

The tiny little fir tree hoped to grow bigger soon and become a beautiful Christmas tree.



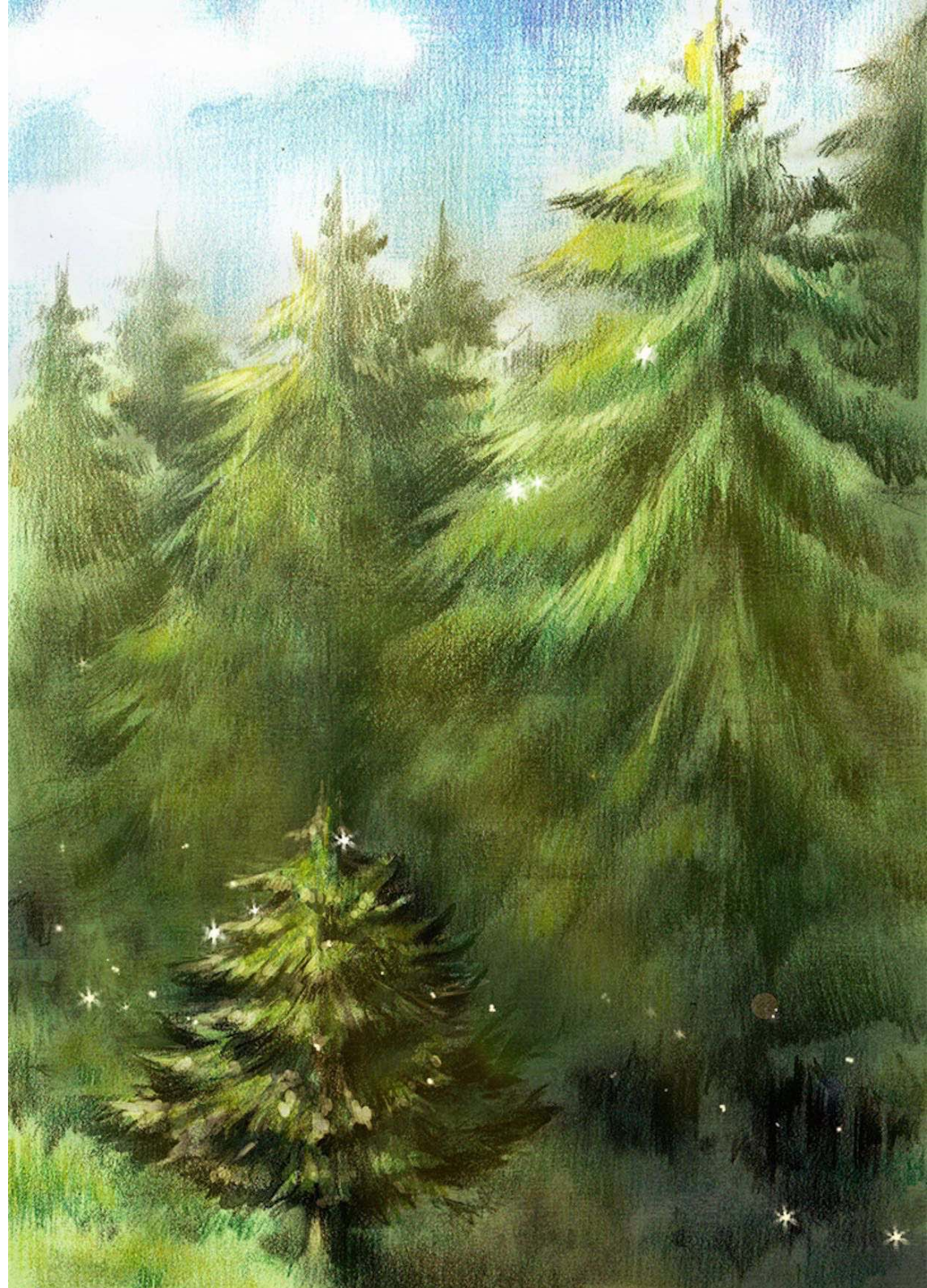
とある まちはずれの もりに、
いっぽんの ちいさな もみのきが はえていました。
その もみのきの まわりには、としとった りっぱな
もみのきや、わかい せのたかい もみのきが
たくさんありました。
ここは ひあたりも よく、ときおり すずしいかぜも
ふいて、とても いごこちが よさそうです。

あるひ、この ちいさな もみのきの うえを、
いちわの うさぎが
ぴよんと とびこえていきました。

「もう、まだだよ。

ぼくが ちいさいと おもって ばかにして。
あ〜あ、はやく おおきく なりたいなあ」

ちいさな もみのきは まいにちのように、
じぶんより おおきな もみのきを、
うらやましそうに みあげていました。



クリスマスが ちかづいてくると、
まちから ひとが たくさんやってきて、
おおきな もみのきを おので きりたおして、
もちかえっていきました。

ちいさな もみのきは、えだに とまっていた
すずめに たずねました。

「ねえ すずめくん、にんげんたちは
あの もみのきを どこに はこんでいくんだい？」
「あれは まちに はこばれて、
クリスマスツリーに なるのさ。
いろとりどりの かざりや、ろうそくの あかりで
キラキラして、とても きれいなんだよ」

ちいさな もみのきは、はやく おおきくなって、
じぶんも すてきな クリスマスツリーに なりたいと
おもいました。

